



IHI Report 第195期  
平成23年4月1日～平成24年3月31日

**IHI**

証券コード：7013

株式会社 **IHI**



# IHI

株主の皆さまへ

「技術をもって社会の発展に貢献する」という当社の原点に立ち返り、世界一をめざす技術を世に送り出すとともに、日々の生産性向上に地道に取り組むものづくりを追い求め、当社グループをより一層成長・拡大させてまいります。

代表取締役社長 兼 最高経営執行責任者

齋藤 保

**Q.** 齋藤社長は、本年4月に社長に就任されました。株主の皆さまへこれまでの経歴などをご紹介します。

**A.** 私は、入社当時、航空エンジンを製造する瑞穂工場に配属され、エンジンの設計、組立て、運転などに携わりました。ここで、現場で考え、日々の改善努力をすることの重要性を学びました。この一つ一つの改善努力の積み重ねが、当社グループの基盤である「ものづくり」の強さにつながっていると考えております。その後、相馬工場の発足に携わるなど、航空宇宙事業本部にてキャリアを積んでまいりましたが、航空宇宙事業本部長を経て取締役になったのちは、円高に対応する調達改革を進める調達管理本部や新事業の開

拓をめざす新事業推進部などを担当し、そのことで、大いに視野を広めることができたと思っております。

**Q.** 次に、社長就任にあたっての抱負をお聞かせください。

**A.** 社長就任の打診を受けた際、「天命には従う」という信条に基づき、迷わずその場で引き受けることを決めました。前社長が築いた内部管理体制などの経営体制を基礎に、「グループ経営方針2010」で掲げたパラダイムシフトを加速し、当社グループを将来性のある高収益企業グループに育てていくべく、精一杯

取り組んでまいります。株主の皆さまの一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

れ、安定した収益力を発揮できる経営体制の基礎が確立できたものと考えております。

**Q.** ありがとうございます。それでは、平成23年度の業績について、どのようにお考えですか？

**A.** 「グループ経営方針2010」の2年目にあたる平成23年度は、東日本大震災、長野県中部地震、タイ大洪水といった自然災害、電力の使用制限、欧州金融危機、歴史的な円高、イラン問題に端を発した原油相場の不安定化など、当社グループを取り巻く経営環境は非常に厳しいものでしたが、最終的には、売上高1兆2,218億円、経常利益417億円と、概ね年度当初立てた予想数値を確保し、3期連続で全ての事業部門の営業黒字を達成することができました。受注前審査の厳格化、プロジェクト工事の進捗やコスト管理の徹底など、一定の内部管理体制が構築さ

**Q.** 平成23年度は、造船統合や上場子会社の完全子会社化の方向性を打ち出されましたが、これらの意図はどこにあるのでしょうか？

**A.** まず、造船統合についてご説明します。当社の子会社である株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユニテッドとユニバーサル造船株式会社の統合は、検討開始から4年間という時間を要しましたが、その間規模の拡大が必要との考えは両社変わることはなく、統合新会社、ジャパン マリンユニテッド株式会社を発足させる（本年10月予定）ということで本年1月に基本的な合意にいたりました。統合新会社は、当社グループの連結対象の企業ではなく持分法適用会社となりますが、造船事業は当社創業の事業であり、

### 業績 ハイライト

科 目	平成23年度(実績)	平成24年度(予想)
受 注 高	12,696 億円	12,500 億円
売 上 高	12,218 億円	12,200 億円
営 業 利 益	433 億円	400 億円
経 常 利 益	417 億円	300 億円
当 期 純 利 益	238 億円	250 億円

### 期末配当について

当期末における配当につきましては、1株あたり、4円とさせていただきます。

他事業とも多くの接点を持っております。まずは、統合新会社がスムーズに立ち上がるよう取り組み、さらに、統合新会社と当社の関連事業間のシナジー効果を追求していきたくと考えております。

また、当社の子会社であるIHI運搬機械株式会社と石川島建材工業株式会社の完全子会社化に向けた手続きを進めており、これまで以上にグループ一体での長期的な視点に立った戦略の策定と実行が可能になるものと考えています。

現在、他の分野においても外部の力を当社グループに取り込む動きを進めており、このような事業構造の改革に引き続き取り組み、当社グループのさらなる成長をめざしてまいります。

を達成できるよう、平成24年度は次のような施策に注力してまいります。

まず、複数事業部門にまたがる総合営業活動の推進と、資源・エネルギー事業において、設計・調達・建設を一括して請け負う組織を再編することによる大型案件への競争力強化により、受注の拡大をはかります。また、エネルギーに関する政策動向や市場性、当社グループの強みをふまえた新たな資源・エネルギー領域の成長戦略を策定します。さらに、新興国を中心とした事業拡大やグローバル調達の強化などによるグローバルな事業運営を一層加速します。これらを含めた諸施策を通じて、安定した経営基盤を持った、成長する企業グループの確立に注力する一年としたいと考えております。

**Q.** 事業構造の改革により、さらなる成長をめざすということですが、今年度は、「グループ経営方針2010」の最終年度にあたります。連結経常利益600億円達成の見通しを教えてください。

**A.** 「グループ経営方針2010」の最終年度にあたる平成24年度においては、昨年度同様、あるいはそれ以上に当社グループを取り巻く環境が厳しさを増すことが想定され、当初掲げた連結経常利益600億円の達成は、極めて困難な状況です。

しかし、私たちはこの水準の収益をあげる力を備えていると考えており、近い将来には、この数値目標

**Q.** 最後に、齋藤社長はIHIグループをどのような企業グループにしたいとお考えですか？その思いをお聞かせください。

**A.** 当社の経営理念である「技術をもって社会の発展に貢献する」という原点に立ち返り、当社らしい、世界をめざす技術を世に送り出し、かつ日々の生産性向上に地道に取り組むものづくりを追い求めていくことによって、当社グループをより一層成長・拡大させてまいります。それにより、利益水準をもう一段引き上げていかなければならないと考えております。

「グループ経営方針2010」のコンセプトは、「ライフサイクル重視」「市場ニーズ重視の製品戦略」「グローバルな事業運営」の3つのパラダイムシフトです。

### 2年目の成果

#### ライフサイクル重視

- 震災・タイ洪水による緊急対応を含め、アフターサービス分野で安定的な受注
- イスタンブールに船舶サービス拠点を開設など

#### 市場ニーズ重視

- 震災復興対応
- 電気自動車充電用の非接触給電装置の共同開発を開始など

#### グローバル

- 中国統括会社の設立（上海）
- トルコ イズミット湾横断橋の建設工事の受注など

### 3年目（最終年度）の重点課題

#### グローバルな事業運営のさらなる加速

- アジア大洋州統括会社（シンガポール）を設立し、東南アジア中心に事業拡大

#### 受注の拡大

- 事業部門をまたがる総合営業活動の推進
- アフターサービス分野は、事業の基盤として安定的な受注をめざす
- EPC（設計・調達・建設）関連組織を再編し、大型案件の受注に注力

#### 競争力の向上

- グローバル調達の拡大に向け、設計など上流部門の取り組みを加速
- ものづくりプロセスの改善・進化による生産性の向上

#### 成長戦略の確立

- 車両用過給機、航空エンジンのさらなる拡大と収益の向上
- 資源・エネルギー領域の成長戦略の策定



藻類の大量培養によるバイオ燃料の製造



浮体式洋上風力発電設備



水中浮体式の海流発電システム

#### 造船統合

- 本年10月に株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッドとユニバーサル造船株式会社を統合し、新会社「ジャパン マリンユナイテッド株式会社」を発足予定（売上規模4,000億円）
- 技術・品質・コストの総合力で世界をリードする会社をめざす
- 統合新会社と当社グループの事業とのシナジー向上のための検討を進める



株式会社 アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド



ユニバーサル造船株式会社

新会社



ジャパン マリンユナイテッド 株式会社

3期連続で「資源・エネルギー」「船舶・海洋」「社会基盤」「物流・産業機械」「回転・量産機械」「航空・宇宙」「その他」の全事業部門で営業利益が黒字となりました。



### 資源・エネルギー事業

	前期	当期
受注高	3,328億円	3,128億円
売上高	3,064億円	3,123億円
営業利益	224億円	109億円

### 化学プラント, 原子力機器が減収

- ・受注高 貯蔵設備, 原子力機器が減少したため, 前期比199億円減の3,128億円
- ・売上高 貯蔵設備, ボイラ, 原動機プラントで増収となったため, 前期比59億円増の3,123億円
- ・営業利益 化学プラント, 原子力機器の減収, ボイラの採算性の低下などにより, 前期比115億円減の109億円



### 船舶・海洋事業

	前期	当期
受注高	1,608億円	767億円
売上高	1,899億円	1,762億円
営業利益	109億円	79億円

### 新造船, 修理船が減収

- ・受注高 新造船の受注が低調に推移したため, 前期比841億円減の767億円
- ・売上高 新造船, 修理船が減収となり, 前期比136億円減の1,762億円
- ・営業利益 売上高の減少, 円高の影響により, 前期比30億円減の79億円



### 社会基盤事業

	前期	当期
受注高	1,033億円	1,995億円
売上高	1,224億円	1,147億円
営業利益	119億円	82億円

### トルコ イズミット湾横断橋工事を受注

- ・受注高 トルコ イズミット湾横断橋の受注により, 前期比962億円増の1,995億円
- ・売上高 橋梁, 水門の減収により, 前期比76億円減の1,147億円
- ・営業利益 売上高の減少などにより, 前期比36億円減の82億円



## 物流・産業機械事業

	前期 億円	→	当期 億円
受注高	1,448	→	1,655
売上高	1,419	→	1,529
営業利益	29	→	56

### 製鉄機械, 運搬機械が増収

- ・受注高 製鉄機械, 交通システムが増加したため, 前期比207億円増の1,655億円
- ・売上高 製鉄機械, 運搬機械の増収により, 前期比110億円増の1,529億円
- ・営業利益 運搬機械の増収, 物流システムの採算性の向上により, 前期比27億円増の56億円



## 回転・量産機械事業

	前期 億円	→	当期 億円
受注高	1,418	→	1,615
売上高	1,403	→	1,658
営業利益	94	→	104

### 車両用過給機が好調

- ・受注高 自動車市場の回復により車両用過給機が増加し, 前期比196億円増の1,615億円
- ・売上高 車両用過給機の増収により, 前期比254億円増の1,658億円
- ・営業利益 増収により, 前期比9億円増の104億円



## 航空・宇宙事業

	前期 億円	→	当期 億円
受注高	3,110	→	3,311
売上高	2,737	→	2,994
営業利益	58	→	60

### 防衛省, 民間向け航空エンジンがともに増収

- ・受注高 防衛省向けの航空エンジンが増加し, 前期比200億円増の3,311億円
- ・売上高 防衛省, 民間向け航空エンジンがともに増収となり, 前期比257億円増の2,994億円
- ・営業利益 増収および採算性の向上により, 前期比2億円増の60億円



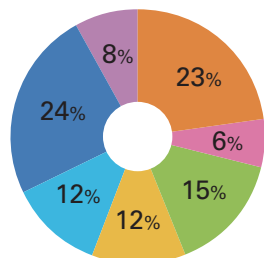
## その他事業

	前期 億円	→	当期 億円
受注高	1,095	→	1,052
売上高	1,143	→	1,073
営業利益	21	→	11

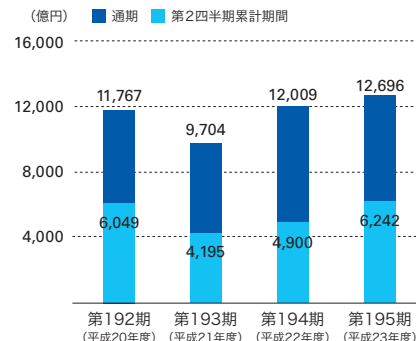
### 船用ディーゼルエンジン, 農業機械が減収

- ・受注高 農業機械, 建設機械が減少したことにより, 前期比43億円減の1,052億円
- ・売上高 船用ディーゼルエンジン, 農業機械の減収などにより, 前期比70億円減の1,073億円
- ・営業利益 前期比9億円減の11億円

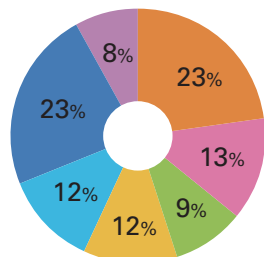
### 受注高(連結)



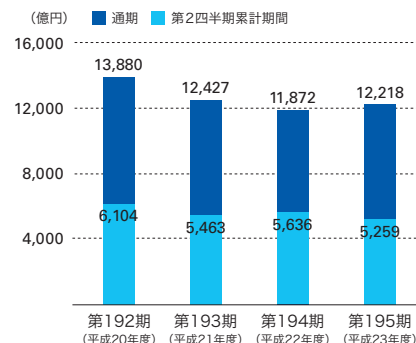
資源・エネルギー事業	3,128億円
船舶・海洋事業	767億円
社会基盤事業	1,995億円
物流・産業機械事業	1,655億円
回転・量産機械事業	1,615億円
航空・宇宙事業	3,311億円
その他事業	1,052億円
調整額	△829億円
合計	12,696億円



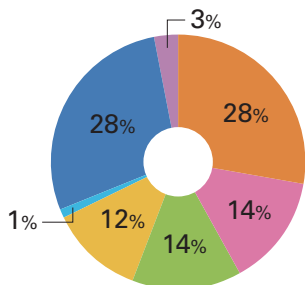
### 売上高(連結)



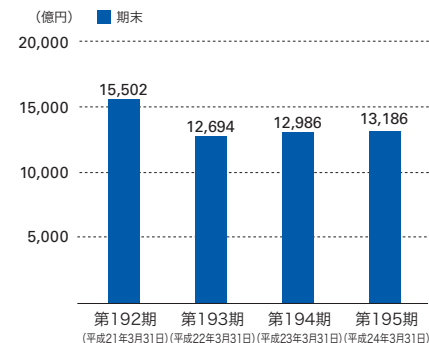
資源・エネルギー事業	3,123億円
船舶・海洋事業	1,762億円
社会基盤事業	1,147億円
物流・産業機械事業	1,529億円
回転・量産機械事業	1,658億円
航空・宇宙事業	2,994億円
その他事業	1,073億円
調整額	△1,070億円
合計	12,218億円



### 受注残高(連結)



資源・エネルギー事業	3,684億円
船舶・海洋事業	1,888億円
社会基盤事業	1,901億円
物流・産業機械事業	1,583億円
回転・量産機械事業	178億円
航空・宇宙事業	3,688億円
その他事業	259億円
合計	13,186億円





## 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当期末	前期末
	平成24年 3月31日	平成23年 3月31日
<b>流動資産</b>	<b>844,364</b>	<b>853,405</b>
現金及び預金	63,914	116,422
受取手形及び売掛金	348,671	291,033
棚卸資産	351,044	363,099
その他	80,735	82,851
<b>固定資産</b>	<b>493,767</b>	<b>508,036</b>
有形固定資産	334,745	328,739
無形固定資産	23,612	21,056
投資その他の資産	135,410	158,241
<b>資産合計</b>	<b>1,338,131</b>	<b>1,361,441</b>

科 目	当期末	前期末
	平成24年 3月31日	平成23年 3月31日
<b>流動負債</b>	<b>689,693</b>	<b>691,131</b>
支払手形及び買掛金	293,493	269,445
短期借入金及び社債	134,194	144,885
前受金	104,393	123,603
その他	157,613	153,198
<b>固定負債</b>	<b>389,963</b>	<b>416,670</b>
長期借入金及び社債	195,417	215,716
その他	194,546	200,954
<b>負債合計</b>	<b>1,079,656</b>	<b>1,107,801</b>
<b>株主資本</b>	<b>254,342</b>	<b>234,684</b>
資本金	95,762	95,762
資本剰余金	43,044	43,037
利益剰余金	116,083	95,973
自己株式	△ 547	△ 88
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△ 4,203</b>	<b>3,402</b>
新株予約権	462	388
少数株主持分	7,874	15,166
<b>純資産合計</b>	<b>258,475</b>	<b>253,640</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,338,131</b>	<b>1,361,441</b>

## 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当期	前期
	平成23年 4月 1日～ 平成24年 3月31日	平成22年 4月 1日～ 平成23年 3月31日
<b>売上高</b>	<b>1,221,869</b>	<b>1,187,292</b>
売上原価	1,025,884	976,846
<b>売上総利益</b>	<b>195,985</b>	<b>210,446</b>
販売費及び一般管理費	152,652	149,056
<b>営業利益</b>	<b>43,333</b>	<b>61,390</b>
営業外収益	14,208	12,447
営業外費用	15,826	22,355
<b>経常利益</b>	<b>41,715</b>	<b>51,482</b>
特別利益	22,091	20,740
特別損失	9,491	24,759
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>54,315</b>	<b>47,463</b>
法人税等	29,147	16,872
少数株主利益	1,345	827
<b>当期純利益</b>	<b>23,823</b>	<b>29,764</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当期	前期
	平成23年 4月 1日～ 平成24年 3月31日	平成22年 4月 1日～ 平成23年 3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,743	95,565
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 37,722	△ 77,798
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 38,542	△ 25,907
現金及び現金同等物の期末残高	63,498	115,025



資源・  
エネルギー  
事業

## 株式会社東芝と可搬型の 放射能汚染水処理システムを 共同開発

当社は、株式会社東芝と共同でトラックなどによる移動が可能な放射能汚染水処理システム(SARRY-Aqua)を開発しました。同装置は、福島第一原子力発電所で平成23年8月から稼働している汚染水処理装置を小型化したものです。

汚染水の処理能力は1時間あたり1トンで、処理した水の放射性セシウムの濃度を10ベクレル/kg以下にすることができます。

本装置は、国際標準の小型コンテナに搭載可能なサイズとすることで、様々な場所で発生した汚染水などの処理を行なうことができるようになります。



SARRY-Aqua



船舶・  
海洋事業

## 防衛省からヘリコプター搭載護衛艦を受注

株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド(IHIMU)は、防衛省から、ヘリコプター搭載護衛艦(DDH)を受注しました。本艦は、基準排水量19,500トン型のヘリコプター搭載護衛艦の1番艦であり、海上自衛隊の護衛艦としては最大級で、ヘリコプター5機分の発着艦スポットを備えております。

IHIMUは、これまで、「ひゅうが」、「いせ」などのヘリコプター搭載護衛艦を建造してきております。それらを通じて得られた技術・経験を基に、高度な技術が必要とされる艦艇の分野をはじめとした、付加価値の高い船舶を今後も建造してまいります。



ヘリコプター搭載護衛艦 完成予想図



社会基盤  
事業

## 国内最大規模の 河川ゲートが完成

株式会社IHIインフラシステム(IIS)は、平成24年1月、国土交通省北陸地方整備局向けに大河津可動堰改築ゲート設備(新潟県燕市)を引き渡しました。これは、信濃川の度重なる水害をなくすために大河津分水に建設された大型水門です。本ゲートは河川用ラジアルゲートとして国内最大の径間であり、日本最大級の油圧シリンダで駆動します。

当社およびIISは、これまで国内外の水門建設に数多く携わっており、8,000門以上の納入実績を誇ります。今後も高い技術力によって、国内外の社会基盤の整備に貢献するべく、積極的な営業活動を展開してまいります。



大河津新可動堰完成写真



物流・  
産業機械  
事業

## アフリカ最大級の ジブクレーンを受注

IHI運搬機械株式会社(IUK)は、アンゴラPAENAL Yard(パイナルヤード)向け2,500トン固定回転式ジブクレーンを受注しました。本クレーンは、陸上に設置されるクレーンとしては、アフリカで最大となります。本クレーンは、2,500トンという大荷重を吊ることが可能ですが、軽くて丈夫なパイプ鋼材を使用するなど軽量化を達成し、基礎への負荷を軽減することで、お客さまのコストダウンにつながります。IUKは、今後もより安全で作業効率のよい運搬機械を提供するべく、開発・販売を行なってまいります。



ジブクレーン完成イメージ図

回転・  
量産機械  
事業

## 株式会社IHIターボ 車両用過給機の累計生産台数 2,000万台達成

株式会社IHIターボ(ITJ)は、平成23年11月に車両用過給機の累計生産台数2,000万台を達成しました。

ITJは、昭和45年に車両用過給機の生産を開始しました。当時の生産台数は、年間1万3,900台でしたが、現在では100万台の生産台数を誇ります。累計生産台数は、平成13年の1,000万台突破から約10年で2,000万台を達成しました。

近年、環境規制の厳しい欧州を中心に車両用過給機の需要は伸びており、ITJを含めた当社グループでは、さらなる車両用過給機事業の拡大をめざしてまいります。



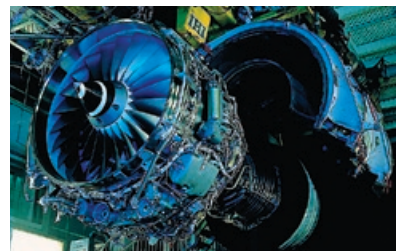
車両用過給機

航空・  
宇宙事業

## 国際共同開発の民間航空機エンジン「V2500」向け 担当部品の累計納入台数が5,000台達成

当社は、仏エアバス社A320などに搭載される航空機エンジン「V2500」の開発・製造に約14%のシェアで参画しており、同エンジン向けファンモジュールの累計納入5,000台を達成しました。5,000台の納入実績は、これまでの航空機エンジンの中で歴代3位となります。

当社は、「V2500」の後継エンジンである「PW1100G-JM」の国際共同開発にも参画しており、引き続き、民間航空機エンジン事業を拡大してまいります。



航空機エンジン「V2500」



その他  
事業

## 非接触給電装置を米国企業と 共同開発



非接触給電装置



屋外駐車場での設置例

当社は、米国ワイトリシティ コーポレーションとライセンス契約を結び、非接触給電装置を共同開発しています。非接触給電とは、ケーブルなしで電力を伝える技術で、ケーブルやコンセントの抜き差しが必要ないため、電気機器が格段に使いやすくなります。当社では、電気自動車充電用の非接触給電装置の商品化に向けて開発を進めるとともに、当社グループの各種産業機械などでの活用も検討してまいります。

## C | S | R | 活 | 動 | ■ インド コチでの地域交流

当社は、インドのケララ州コチ市で、液化天然ガス(LNG)貯蔵タンクを建設中です。建設工事を行なうだけでなく、地域の一員として何かできることはないかと考え、現地事務所近くの公立小学校の学習環境向上につなげてもらおうと、辞書100冊、制服の生地50人分、帽子などを贈呈しました。

また、工事に関する簡単なクイズを用意し、子供たちに工事現場の理解を深めてもらいました。

小学校関係者からは、「IHIが行なっている工事の内容や用途が分かり、子供たちも勉強になった。また地域の学業を支援していただき大変感謝している」という言葉が聞かれました。

今後も当社への理解を得られるよう、現地のニーズに即して活動してまいります。



制服用生地の贈呈式



IHIのロゴの入った帽子を被った子供たち

### 会社の概要 (平成24年3月31日現在)

商号 株式会社IHI  
 IHI Corporation  
 設立年月日 明治22年1月17日  
 本社所在地 〒135-8710 東京都江東区豊洲三丁目1番1号  
 資本金 95,762,421,600円  
 株主数 104,699名  
 ホームページアドレス <http://www.ihico.jp>



豊洲IHIビル

### 役員 (平成24年6月22日現在)

#### ●取締役

**代表取締役会長** 釜 和明  
**代表取締役社長** 斎藤 保  
**代表取締役副社長** 中村 房芳  
 塚原 一男  
 出川 定男  
**取締役** 芹澤 誠  
 坂本 讓二  
 寺井 一郎  
 瓦谷 立身  
 井元 泉  
 石戸 利典  
 岩本 宏  
 浜村 宏光

**社外取締役** 浜口 友一  
 岡村 正

#### ●監査役

**常勤監査役** 丸山 正和  
 大鷹 秀生  
**社外監査役** 井口 武雄  
 郷原 信郎  
 能仲 久嗣

#### ●執行役員

**最高経営執行責任者** 斎藤 保  
**常務執行役員** 瓦谷 立身  
 石戸 利典  
 岩本 宏  
 井元 泉  
 吉田 詠一  
 高田 成人  
 我孫子 治  
 寺井 一郎  
**執行役員** 井上 明  
 村井 一郎  
 吉田 豊  
 朝倉 啓  
 満岡 次郎  
 浜村 宏光  
 大谷 宏之  
 望月 幹夫  
 松井 一良  
 榊 純一  
 館野 昭  
 堂元 直哉  
 古川 弘  
 安部 昭則

会計監査人

新日本有限責任監査法人 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル

## 株式事項 (平成24年3月31日現在)

### ●株式の総数

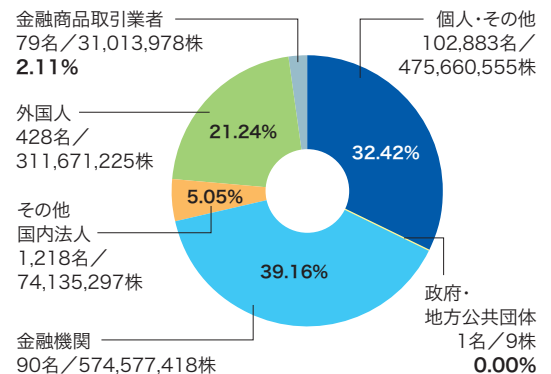
発行可能株式総数	3,300,000,000株
単元株式数	1,000株
発行済株式の総数	1,467,058,482株
うち単元株式数	1,464,141,000株

### ●大株主

株主名	持株数(株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	70,649,000	4.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(中央三井アセット信託銀行再信託分・株式会社東芝退職給付信託口)	55,422,000	3.78
第一生命保険株式会社	54,060,700	3.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	48,516,000	3.31
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	43,680,050	2.98
IHI共栄会	26,939,000	1.84
日本生命保険相互会社	23,867,886	1.63
三井住友海上火災保険株式会社	22,268,000	1.52
住友生命保険相互会社	21,624,000	1.48
株式会社みずほコーポレート銀行	20,801,958	1.42

### ●株主構成

#### ■所有者別株式分布状況



(注)IHI Reportの作成にあたり、金額および株数・持株比率は単位未満を切捨て表示しました。ただし、連結財務諸表の金額は四捨五入表示しました。

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当:毎年3月31日 中間配当:毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および 全国各支店で行なっております。 ※日本証券代行株式会社による取次事務につきましては、 平成24年3月末をもって終了いたしました。

・**住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について**  
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

・**未払配当金の支払いについて**  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

・**ゆうちょ銀行口座配当金受取りサービスのご案内**  
配当金のお受取りにつき、従来の銀行預金口座へのお振込みおよび株式数比例配分方式に加え、ゆうちょ銀行口座(通常貯金口座)へのお振込みができるようになりました。ご希望の方は、所定の用紙にてお手続きください。

### <用紙のご請求先>

- 証券会社の口座で株式を保有されている株主様
- ▶ 株主様の口座のある証券会社
  - ▶ 特別口座に記録された株式を保有されている株主様
  - ▶ 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
0120-782-031(フリーダイヤル)

## CSR報告書について

当社は、社会的課題や社会的要請に対する当社グループの取り組み内容をまとめた「IHI CSR REPORT 2012」を平成24年6月22日に発行いたしました。CSR報告書の電子ファイルは、当社ホームページからダウンロードできます。

<http://www.ihi.co.jp/csr/index.html>



IHI CSR REPORT 2012



Explore the Engineering Edge



## 株式事務のお問い合わせは

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

